

樹の木

健康で心ゆたかな子 深く考えくふうして学ぶ子 進んではたらく子
7月号 杉並区立杉並第六小学校 <http://www.suginami-school.ed.jp/sugi6shou/>



いちばん大切なこと

副校長 山澤 拓郎

1学期も残りわずかとなりました。各学級では保護者会や個人面談で1学期の振り返りが行われます。保護者会での話題を各担任は考えるのですが、数年前、私自身も子育てに悩んでいた頃、保護者会で右にある詩を紹介し、保護者の皆様と共に考える機会をもつたことを思い出しました。

これは天皇陛下がまだ皇太子でいらした2005年2月23日、お誕生日を迎えるにあたって記者会見されたお言葉の中で紹介された詩です。天皇陛下に即位される際にもテレビ番組の特集で、改めて紹介されていましたし、当時も話題になりましたので、ご存知の方も多いのではないかと思います。静かながら、とても強く、そして優しいその詩の言葉に、心を動かされます。作者はドロシー・ロー・ノルトというアメリカの家庭教育学者で、「子どもが育つ魔法の言葉」シリーズや「いちばん大切なこと」などの著書があります。

ドロシーさんの考えの根本には“3A”という考え方があります。

accept (アクセプト) : ありのままを受け入れる
appreciation (アプリシェーション) : その子の存在に感謝する

affection (アフェクション) : 大切だと思う気持ち

ここにコミュニケーションが加わると、子どもの成長に必要な「愛」が育つそうです。

ドロシーさんの著書には一見あたりまえのように思えることが多く書かれています。しかし、現代の生活の忙しさのなかで、さまざまな刺激やあふれる情報のなかで、わたしたちはつい大切な何かを失ってしまいがちです。長い夏休み、どうぞ親子でゆっくりとお過ごしください。

子ども ドロシー・ロー・ノルト

批判ばかりされた子どもは
非難することをおぼえる
殴られて大きくなったり子どもは
力にたよることをおぼえる
笑いものにされた子どもは
ものを言わずにいることをおぼえる
皮肉にさらされた子どもは
鈍い良心のもちぬしとなる
しかし、激励をうけた子どもは
自信をおぼえる
寛容にであった子どもは
忍耐をおぼえる
賞賛をうけた子どもは
評価することをおぼえる
フェアプレーを経験した子どもは
公正をおぼえる
友情を知る子どもは
親切をおぼえる
安心を経験した子どもは
信頼をおぼえる
可愛がられ抱きしめられた子どもは
世界中の愛情を感じ取ることをおぼえる

『あなた自身の社会-スウェーデンの中学教科書-』

(川上邦夫訳、新評論) より